

里山の多様性・健全性維持に向けた学生フィールドワーク

【概要】

一見、緑豊かに茂る中山間地の里山は、過疎化、住民の高齢化、生活様式の変化による利用の放棄などによって、生物多様性や生態系の健全性、防災などの公益的機能にさまざまな問題を抱えている。本課題では、これらの改善に向けた第一歩として、地域住民の方々や自治体の協力のもと、学生に里山と地域社会の現状を実習させるためのフィールドワークを展開する。フィールドワークを課題発見力や解析力、提案力などの学生教育に活用するとともに、地域の実情を深く理解できる学生を養成する場とする。この取り組みの中から、地域社会を担う学生を育てる方策をさぐる。

【キーワード】 中山間地、林業、持続可能性、生物多様性

【参加メンバー】 地域環境学科 教授 永松 大（総括・森の健康診断担当）
農学部生物資源環境学科 教授 能美 誠（森・棚田ボランティアワーク）
教授 山本福寿（森・棚田ボランティアワーク）

【計画】

- 1年目： (1) 森の健康診断と連携した学生フィールドワーク（若桜）
(2) 森・棚田ボランティアワークへの学生参加支援
- 2年目： (1) 森の健康診断と連携した学生フィールドワーク（八頭）
(2) 森・棚田ボランティアワークへの学生参加支援
- 3年目： (1) 森の健康診断と連携した学生フィールドワーク（八頭・用瀬）
(2) 森・棚田ボランティアワークへの学生参加支援
(3) 森づくりシンポジウムの開催検討

- ・「千代川森の健康診断」と連携した人工林健全性評価の学生フィールドワークは23年度から継続中。
- ・千代川森の健康診断について、他地域で行われている同様の取り組みとの連携や協力を模索
- ・農学部で実施されている森・棚田ボランティアワーク（鳥取県東部で年に数回実施）と連携し、地域学部からの学生参加を支援するとともに、地域社会とのネットワークづくりをすすめる
- ・その他のイベントを活用する中で、地域社会と連携した学生フィールドワークの持続可能なしくみ、フィールドワークにとどまらない学生参加のしくみづくりについて検討する
- ・その他、森の健康診断を足がかりとした森林のシカ害調査
- ・ドングリ類の豊凶調査によるツキノワグマ出没予測との連携模索

【地域連携先】 千代川森の健康診断実行委員会、NPO 法人賀露おやじの会。NPO 法人因幡の山と里、智頭町役場、若桜町役場、地元森林組合など